

Ⅲ 項目別実績 令和5～6年度実施予定欄 新旧表（修正項目のみ抜粋）

資料2-2

令和5年6月28日提出済（案）	令和6年4月1日提出	変更理由
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
1 研究の推進及び成果の普及・活用	1 研究の推進及び成果の普及・活用	
<p>5 (3) 研究の推進方向                      (ア) a 豊かな食生活を支える農業及び食関連産業の振興</p> <p>豊かな食生活を支える農業及び食関連産業の振興に向けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高度に安定した食味をもつ極良食味米品種の開発</li> <li>・ 加工適性に優れた病害・障害に強い畑作物品種の開発</li> <li>・ でん粉原料用ばれいしょ新品種「コナヒメ」の安定生産のための栽培法の開発</li> <li>・ 北海道の栽培条件を活かすりんご品種の選定と栽培法の確立</li> <li>・ 北海道加工にんじんの安定供給を目指した栽培・出荷体系の確立</li> <li>・ 持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化</li> <li>・ ゲノム育種価を活用した黒毛和種種雄牛生産</li> <li>・ 産肉能力を考慮した黒毛和種肥育牛の24ヵ月齢肥育技術</li> <li>・ 北海道の気候に適した牛舎の機械換気システムの開発</li> <li>・ サイロマネージメントの効率化に向けた発酵品質予測技術の開発</li> <li>・ リモートセンシングと圃場情報を活用した干湿害多発農地の診断手法の開発</li> <li>・ 新規道産野菜の加工流通技術の開発</li> <li>・ 道産かぼちゃ3トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発</li> </ul> <p>など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。</p>	<p>(3) 研究の推進方向                      (ア) a 豊かな食生活を支える農業及び食関連産業の振興</p> <p>豊かな食生活を支える農業及び食関連産業の振興に向けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害耐性に優れる極多収米、ならびに極良食味米品種の開発</li> <li>・ 加工適性に優れた病害・障害に強い畑作物品種の開発</li> <li>・ でん粉原料用ばれいしょ新品種「コナヒメ」の安定生産のための栽培法の開発</li> <li>・ 北海道の栽培条件を活かすりんご品種の選定と栽培法の確立</li> <li>・ 北海道加工にんじんの安定供給を目指した栽培・出荷体系の確立</li> <li>・ 持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化</li> <li>・ ゲノム育種価を活用した黒毛和種種雄牛生産</li> <li>・ 産肉能力を考慮した黒毛和種肥育牛の24ヵ月齢肥育技術</li> <li>・ 北海道の気候に適した牛舎の機械換気システムの開発</li> <li>・ サイロマネージメントの効率化に向けた発酵品質予測技術の開発</li> <li>・ リモートセンシングと圃場情報を活用した干湿害多発農地の診断手法の開発</li> <li>・ 近未来の社会構造の変化を見据えた力強い北海道食産業の構築（新規道産野菜の加工流通技術の開発）</li> <li>・ 道産かぼちゃ3トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発</li> </ul> <p>など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。</p>	<p>・ R6年度計画に合わせた修正</p>

令和5年6月28日提出済（案）		令和6年4月1日提出	変更理由
9	<p>(3) 研究の推進方向 (イ) b 新たな資源の有効活用と高度利用の推進</p> <p>新たな資源の有効活用と高度利用の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産物の品質をコントロールする技術開発</li> <li>・食品素材化技術開発</li> <li>・多獲性小型魚の有効利用技術開発</li> <li>・微生物増殖の予測と制御による安全性確保と品質向上技術開発</li> <li>・輸出促進のための調査研究</li> <li>・未利用資源と廃棄物を活用した養殖用飼料の開発など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。</li> </ul>	<p>(3) 研究の推進方向 (イ) b 新たな資源の有効活用と高度利用の推進</p> <p>新たな資源の有効活用と高度利用の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産物の品質をコントロールする技術開発</li> <li>・食品素材化技術開発</li> <li>・多獲性小型魚の有効利用技術開発</li> <li>・微生物増殖の予測と制御による安全性確保と品質向上技術開発</li> <li>・輸出促進のための調査研究</li> <li>・未利用資源を活用した食品・機能性素材の開発など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。</li> </ul>	<p>・ R 6 年度計画に合わせた修正</p>
13	<p>(3) 研究の推進方向 (エ) a 持続可能な地域づくりを支える産業の振興</p> <p>持続可能な地域づくりを支える産業の振興に向けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物を対象とした目視品質検査の自動化技術の開発・実用化</li> <li>・IoT金型と加工状態推定・補正技術による高品質板金加工システムの開発</li> <li>・ロボットハンドによる不定形状物ハンドリング技術の開発</li> <li>・AI画像認識や光計測技術などを活用した食品不良品検査技術の開発</li> <li>・IoT技術を応用した見守り・健康支援技術の開発</li> <li>・バイオマスファイバーや炭素繊維複合材料の開発</li> <li>・深共晶溶媒を用いた新規分離反応プロセス技術の開発</li> <li>・人間中心設計のためのUXプロトタイプングに関する研究など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。</li> </ul>	<p>(3) 研究の推進方向 (エ) a 持続可能な地域づくりを支える産業の振興</p> <p>持続可能な地域づくりを支える産業の振興に向けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物を対象とした目視品質検査の自動化技術の開発・実用化</li> <li>・金属粉末を用いた合金化や造形に関する研究</li> <li>・レーザーを用いた微小部熱処理および加工技術の開発</li> <li>・ロボットハンドによる不定形状物ハンドリング技術の開発</li> <li>・AI画像認識や光計測技術などを活用した農産物の良品判定および森林資源量の測定システムの開発</li> <li>・画像認識における説明可能なAIに関する研究</li> <li>・IoT技術を応用した見守り・健康支援技術の開発</li> <li>・人間中心設計のためのUXプロトタイプングに関する研究など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。</li> </ul>	<p>・ R 6 年度計画に合わせた修正</p>

令和5年6月28日提出済（案）		令和6年4月1日提出	変更理由
15	<p>(3) 研究の推進方向 (オ) a 再生可能エネルギーや循環資源などの利活用の推進</p> <p>再生可能エネルギーや循環資源などの利活用の促進に向けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未利用エネルギー資源利用技術の開発</li> <li>・再生可能エネルギーなどの利活用のための環境適合性の評価</li> <li>・積雪寒冷地に適したエネルギー貯蔵技術の開発</li> <li>・資源の開発に関する研究</li> <li>・未利用エネルギー活用技術・システムの開発</li> <li>・エネルギーネットワークシステムの開発</li> </ul> <p>など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。</p>	<p>(3) 研究の推進方向 (オ) a 再生可能エネルギーや循環資源などの利活用の推進</p> <p>再生可能エネルギーや循環資源などの利活用の促進に向けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未利用エネルギー資源利用技術の開発</li> <li>・再生可能エネルギーなどの利活用のための環境適合性の評価</li> <li>・未利用エネルギー活用技術・システムの開発</li> <li>・地域未利用資源利用技術の開発</li> <li>・微量金属類分離応用技術の開発</li> <li>・水処理における高度処理・利用技術の開発</li> <li>・廃棄物の適正処理技術の開発</li> <li>・社会システムレベルの廃棄物処理体制構築に関する研究</li> </ul> <p>など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。</p>	<p>・R6年度計画に合わせた修正</p>
16	<p>(3) 研究の推進方向 (オ) b 生活・産業基盤を支える環境の保全</p> <p>道民の生活や産業の基盤を支える北海道の良好な環境及び生物多様性の保全に向け、次の課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水・物質循環に関する研究</li> <li>・気候変動の緩和・適応策に関する研究</li> <li>・有害物質のリスク低減に関する研究</li> <li>・エゾシカによる被害の防除と個体群管理に関する研究</li> <li>・ヒグマによる被害の防除と個体群管理に関する研究</li> <li>・アライグマの防除に関する研究</li> <li>・自然生態系の保全に関する研究</li> </ul> <p>など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。</p>	<p>(3) 研究の推進方向 (オ) b 生活・産業基盤を支える環境の保全</p> <p>道民の生活や産業の基盤を支える北海道の良好な環境及び生物多様性の保全に向けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水・物質循環に関する研究</li> <li>・気候変動の緩和・適応策に関する研究</li> <li>・有害物質のリスク低減に関する研究</li> <li>・エゾシカによる被害の防除と個体群管理及び持続的利用に関する研究</li> <li>・ヒグマによる被害の防除と個体群管理に関する研究</li> <li>・アライグマの防除に関する研究</li> <li>・自然生態系の保全に関する研究</li> </ul> <p>など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。</p>	<p>・R6年度計画に合わせた修正</p>

令和5年6月28日提出済（案）		令和6年4月1日提出	変更理由
17	(3) 研究の推進方向 (オ) c 災害の防止及び地質資源の活用 災害の防止及び地質資源の活用にむけて、 ・豪雨による斜面災害を軽減するための手法の開発 ・活動的火山の火山現象の解明 ・人口減少時代に応じた地下水資源開発と維持管理手法の構築 ・本道の沿岸漁業振興に必要な沿岸情報の可視化と利活用技術開発 など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。	(3) 研究の推進方向 (オ) c 災害の防止及び地質資源の活用 災害の防止及び地質資源の活用にむけて、 ・地質要因に基づく災害リスクの評価 ・地質資源の開発と利用のための研究開発 ・人口減少時代に応じた地下水資源開発と維持管理手法の構築 ・本道の沿岸漁業振興に必要な沿岸情報の可視化と利活用技術開発 など、中期計画の達成に向けた取組を推進する。	・R6年度計画に合わせた修正
第2			
	4 職員の能力向上と人材の確保	4 職員の能力向上と人材の確保	
36	(2) 人材の確保及び育成 今後の研究の方向性や運営費交付金、令和5年度からの定年延長制度開始による退職者の動向及び職員構成などを見据えながら、試験制度の見直しのほか、インターンシップや業務説明会を通じ、優秀な研究職員の確保に努める。 また、研究支援職員や海事職員についても、業務説明会や通年募集を実施し、職員の確保に努める。	(2) 人材の確保及び育成 今後の研究の方向性や運営費交付金、定年年齢の段階的な引き上げによる退職者の動向及び職員構成などを見据えながら、試験制度の見直しのほか、インターンシップや業務説明会を通じ、優秀な研究職員の確保に努める。 また、採用者の確保に伸び悩む海事職については、受験資格を緩和し、普通高校の卒業者（見込み含む）も受験できるよう見直しを行う。 （現在は船舶職員養成施設（水産高校）に限定）	・R6年度計画に合わせた修正

令和5年6月28日提出済（案）		令和6年4月1日提出		変更理由
第3				
	3 経費の効率的な執行	3 経費の効率的な執行		
41	(2) 管理経費の節減 引き続き、 <b>管理経費の低減につながる</b> 働き方改革の取組を推進するとともに、各種取組の徹底や、節電の徹底等により、 <b>管理経費の節減を図る。</b>	(2) 管理経費の節減 引き続き、 <b>管理経費の節減を図るため</b> 、働き方改革の取組を推進するとともに、各種取組の徹底や、節電の徹底等に <b>取り組む。</b>		・ 修辞上の修正
第4				
	1 施設・設備の整備及び活用	1 施設・設備の整備及び活用		
43	(1) 施設等の整備 引き続き、「施設等整備計画」に基づき、第3期中期期間内に目標使用年を経過する大規模施設の更新や移転・集約に向けた検討を行う。北見農業試験場については、建替を実施する道と、 <b>実施設計、建築工事について連携し検討</b> を行う。 また、全ての試験場を対象とした長期見通しを基に、第4期中期計画期間における施設整備計画の策定に取り組む。	(1) 施設等の整備 引き続き、「施設等整備計画」に基づき、第3期中期期間内に目標使用年を経過する大規模施設の更新や移転・集約に向けた検討を行う。北見農業試験場については、建替を実施する道と連携して <b>整備</b> を行う。 また、全ての試験場を対象とした長期見通しを基に、第4期中期計画期間における施設整備計画の策定に取り組む。		・ 修辞上の修正